

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572609188
法人名	有限会社 峰の山
事業所名	グループホームみずこしの里
所在地	大仙市土川字上雨堤135番地1 (電話) 0187-87-3177
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年10月16日

【情報提供票より】(平成21年9月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1月 10日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤9人, 非常勤1人, 常勤換算9.45人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

(4) 利用者の概要(9月24日現在)

利用者人数	8名	男性	3名	女性	5名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 79歳	最低	62歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤本医院(内科)	富塚歯科医院
---------	----------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者・管理者・職員は熱意を持ってサービスに向上に努めている。事業所では、利用者が穏やかに豊かな自然のもと、畑作りや、手芸・家事の分担等を行い、一人ひとりが自分らしく得意分野を発揮し、それを職員がさりげなく支えている。地域との関わりについても、事業所の行事や外出計画を通じ引きこもらない支援の実践に努め、小学生や近隣の地域住民参加の行事や避難訓練を行い地域との交流を深めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題である栄養バランスの確保については、保健所等の行政と相談し近隣の特別養護老人ホームの協力を得て、献立チェックを図り改善されている。また、自己評価の活用、市町村との連携、職員を育てる取り組み等においても管理者を中心に全職員で改善に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価・外部評価を実施する意義を理解し自己評価を作成すると共に、運営者の協力の下に全職員で外部評価から改善点を見だし、改善に活かすよう取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、利用者や家族、地域包括支援センター、自治会長、民生委員等が出席し、事業所の近況報告や各団体の報告の後に情報交換を行い、その意見を事業所に持ち帰り、職員会議等で全職員に報告し、改善点やサービス向上のために活用している。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>契約時に苦情受け付けの取り決めや家族の面会時に家族の意見や要望等を聞き出すため積極的に会話をしたり、事業所内に意見箱を設置したりと家族の意見を反映するための取り組みがされている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所の行事や地域の活動に参加すると共に、避難訓練等においても各関係者との連携や協力体制を深めている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症であっても家庭的な環境の基で個人の能力を生かし、役割を持ちながら機能を維持し地域の一員として生活することを支援する」を理念とし、利用者が地域の一員として過ごせるように支援している。	○	事業所の理念とパンフレットや事業所内で掲示されている方針や目標との調和を図ることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在は、「自分らしく穏やかな生活」を方針・目標として支援している。	○	運営者と管理者と職員は、事業所の方針や目標を理解し、それを日々の実践活動に取り組んでいるが、理念と方針・目標の係わりについて再確認し、理念に基づいたサービス提供の実施に期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や小学生との交流、ボランティアの受け入れや地域のクリーンアップ等の活動に積極的に参加し、事業所が孤立することのないよう地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解し、月1回の職員会議を通じ話し合いの場を設け、できるところから改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見をサービス向上の場と捉え、利用者や家族、地域包括支援センターや自治会長、民生委員などからの意見をサービス向上に活かすよう取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	週1回地域包括支援センターを訪問したり、市町村担当者とも行き来し、事業所の現状を報告すると共に情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の「みずこしの里だより」を家族に送付する際に、利用者の暮らしぶりを写真等を含め報告すると共に、お小遣いの明細等の金銭管理状況を報告している。また、利用者の体調等の変化があった場合はその都度電話等で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受け付けの事業所の取り組みや意見箱の設置について説明を行っている。また、家族が来られた時には積極的に会話を行い家族の意見や事業所への要望を聞くように努めている。	○	家族等の意見や不満や要望を取り入れるよう努めているが、家族等は事業者には要望はなかなか話すことが困難であることを踏まえ、事業所の受付担当者の氏名、手順等の流れを一覧できるものを掲示する等工夫されることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームのみの運営となっており職員の異動はなく安定している。最近、管理者の退職があったものの新たに管理者を採用するのではなく、現職員からの管理者となったため利用者の馴染みの関係が保たれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員を育てることの意義をよく理解しており、全職員が年2回は研修に参加できるように配慮している。また、事業所内での職員会議を活用した復命研修も実施されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加や交流会での意見交換を通じ、事業所の現状報告や相互間の活動状況等を通じて得た事柄をサービス向上に取り入れよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、馴染みながらのサービスを利用できるように、利用者のこれまでの生活や本人の希望、家族の考え等をよく聞くように努めている。事業所の利用にあたり、サービスをいきなり開始するのではなく雰囲気を感じてもらえるような取り組みを検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所内での共同作業のちぎり絵や貼り絵を通じ、本人の持つ良い点を認め、作品を額に入れ掲示したり利用者から学んだり支え合う関係づくりに努めている。また、里芋の皮むき等、作業を一緒に行うことにより喜怒哀楽を共に感じるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時や日常生活の中で利用者の思いや希望を把握し、敷地内での軽度な農作業や手芸等の共同作業、食事や入浴、散歩など本人の意向に添うように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、担当職員及び必要に応じて医師等の関係職員と話し合い、それぞれの意見や希望を考慮し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月から6ヶ月ごとにカンファレンスを行いながら介護計画を見直すと共に、体調の変化が生じた場合には現状に即した新たな計画を作成するために、本人や家族及び医師等の必要な関係者と相談し見直しを図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の機能を活かした支援を行うために、緊急時の受診や定期健康診断の受診の支援を行うと共に、本人や家族の要望を聞き、その要望に応じて柔軟な対応に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に添い、本人の望むかかりつけ医の受診を行えるよう支援している。また、定期受診に加え健康診断もかかりつけ医師との連携で実施している。個別に健康状態を記録し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に事業所の方針を説明している。かかりつけ医の受診時には、医師からの意見や家族の意向を確認しつつ、今後の事業所の対応について全職員と方針を話し合い、対応を検討する予定である。	○	利用者の重度化や終末期に向けたケアが今後求められることが予想されるので、運営者、管理者、職員でどのように対応することができるか話し合い、方針を共有できるように期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員のさりげない声がけにより利用者の得意とする分野を引き出し、援助が必要などにもさりげない援助がなされている。また、記録等は隣接する事務室に保管されており個人情報の取り扱いには、十分に配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが自分の生活リズムを大切にし、本人の意向や過ごし方の把握に努め、ある時は農作業に、ある人は趣味活動を行い、穏やかに自分らしく日々の生活を暮らせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるように、日常会話の中で利用者の好みを把握し、献立に取り入れるように努めている。また、職員と一緒に準備や後片づけを行うことにより食事が提供されるものではなく、日々の生活を楽しむものとして支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、午後の時間帯を入浴の時間としているが、その日の希望や健康状態に合わせて、午前入浴もできるように柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の希望に応じ、畑での作業や手芸作成、食事の準備等々、それぞれの生活歴の得意分野を活かした役割を発揮できるよう支援している。手芸のちぎり絵などの大作の完成時には、特別の額に入れ、利用者の意欲を引き出す支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出を促すために、事業所では定期的な季節事外出を実施すると共に、散歩やドライブ、買い物等、その日の希望によって外出できるよう支援している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、夜間以外に鍵をかけない支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を消防署や地域住民の参加を得てマニュアルに沿って実施している。また、職員に救急救命講習を積極的に受講させ災害時に備えている。	○	居室からの避難経路の一部が階段になっており、踊り場にストッパーがなく、車いすでの避難時に落下することが予想されるのでストッパー及び手すり等を備え、危険防止の処置を行うよう期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が利用者一人ひとりの状態や好みを把握し献立を作成している。食事や水分の摂取量を一日を通じ個別に記録し把握している。栄養バランスについては、近隣の特別養護老人ホームの協力を得て専門家による献立の栄養チェックを行い、健康管理に努めている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の玄関や廊下居間は適度な採光があり不快な臭いは感じられなかった。また、居室前の共用空間には、花が生けてあり季節感を醸しだしており、居心地の良い共有空間づくりに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人が使い慣れたものや好みのもの持参することには制限をしていない。本人や家族が話し合い本人が居心地のよく過ごせるよう支援している。		

※ は、重点項目。